

(1) 令和 8 年度事業計画及び収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて

令和 8 年度事業計画

【令和 8 年度 基本方針】

1 観光を取り巻く環境と大津市の現状

近年、国内外の観光需要は回復を続け、訪日外国人旅行者数は過去最高水準に達するなど、日本の観光市場は成長局面を迎えています。大阪・関西万博の開催を契機として関西圏全体への関心が高まり、関西を訪れる旅行者が周辺地域へ足を延ばす動きも広がりつつあります。

一方で、大津市は京都・大阪に近接する立地にありながら、観光の主目的地が周辺都市に集中しやすく、市内滞在時間が比較的短いという課題があります。びわ湖の自然景観や歴史文化資源は広く認知されているものの、「立ち寄り観光」にとどまるケースも少なくありません。

今後は、びわ湖を中心とした自然景観と社寺・歴史文化・伝統行事など地域資源を活かしながら、滞在型・体験型観光の充実と市内周遊の促進を図ることが重要です。また、旅行者の情報収集手段のデジタル化が進む中で、ターゲットに応じた情報発信を強化し、びわ湖大津の魅力を効果的に伝えていく必要があります。

2 令和 8 年度の重点的な観光動向への対応

令和 8 年度は、NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送を契機として、戦国時代に関連する観光への関心の高まりが期待されています。大津市には坂本城跡や西教寺など戦国時代ゆかりの歴史資源が数多く存在しており、これらを活用した観光プロモーションや歴史体験の充実を図ることで、新たな観光需要の創出につなげます。

また、令和 9 年度に予定されている滋賀デスティネーションキャンペーンに向けた準備期間として、地域事業者と連携しながら観光コンテンツの磨き上げや旅行商品の造成を進め、大津市ならではの観光素材の発信を強化します。

さらに、小説『成瀬は天下を取りにいく』シリーズなど大津を舞台とした作品を活用したコンテンツツーリズムを展開し、新たな来訪動機の創出にも取り組みます。

3 地域資源を活かした滞在型・体験型観光の推進

びわ湖の豊かな自然環境や歴史文化資源を活かし、地域ならではの体験型観光の充実を図ります。自然体験や文化体験、食文化などを組み合わせた観光プログラムの発信を強化し、訪れた人が地域の魅力を深く感じられる観光地づくりを進めます。

また、夜間観光やナイトイベントなどを活用し、ナイトタイムエコノミーの創出にも取り組みます。夏の夜の社寺拝観やライトアップ、花火大会など大津ならではの夜の魅力を発信し、宿泊・滞在型観光の促進につなげます。

さらに、びわ湖大津 SDGs 教育旅行プログラムについても、体験内容の充実と情報発信を進め、探究型学習を中心とした教育旅行の受入拡大を図ります。

4 地域連携と観光地域マネジメントの推進

観光振興を地域全体の取り組みとして進めるため、行政機関、観光事業者、文化団体、交通事業者など多様な関係者と連携し、びわ湖大津の魅力向上と誘客促進に取り組みます。

また、観光協会が地域の観光マネジメントを担う組織として機能するため、観光データの活用や地域関係者との情報共有を進めるとともに、持続可能な観光政策に向けた調査研究を行い、観光地域づくりの基盤整備を進めます。

【令和8年度 重点事項】

1 歴史・文化資源と四季の特色を活かした誘客と観光消費の拡大

社寺や歴史文化資源、びわ湖の自然景観など大津ならではの観光資源を活かし、四季を通じた観光誘客を推進する。戦国ゆかりの歴史資源や大河ドラマを契機とした観光プロモーションを展開し、市内周遊の促進と観光消費の拡大を図る。

2 コンテンツツーリズムと滋賀デスティネーションキャンペーンを見据えた誘客促進

大津を舞台とした小説や映像作品などのコンテンツを活用した観光プロモーションを推進し、新たな来訪動機の創出を図る。また、令和9年度の滋賀デスティネーションキャンペーンを見据え、地域事業者と連携した観光コンテンツの磨き上げと旅行商品の造成を進める。

3 観光マーケティングの強化と戦略的な情報発信

観光動態データやWEB・SNSの分析結果を活用し、ターゲット層に応じた観光プロモーションを展開する。デジタル媒体と紙媒体、マスメディアを組み合わせた情報発信により、びわ湖大津の認知度向上と来訪促進を図る。

4 滞在型・体験型観光の充実と受入環境の整備

びわ湖の自然や歴史文化を活かした体験型観光コンテンツの充実を図るとともに、ナイトイベントやライトアップなど夜間観光の展開により滞在型観光を推進する。また、教育旅行プログラムの充実や観光案内機能の強化など、来訪者の満足度向上につながる受入体制の整備を進める。

【公益目的事業】

1. 観光宣伝誘客事業（42,691千円）

(1) 四季折々の自然と歴史資源や伝統文化を活用した誘客促進事業（補助）

びわ湖を中心とした四季の自然景観と、市内に点在する歴史資源・伝統文化を活かし、季節ごとの特色を打ち出した事業展開により来訪機会を創出するとともに、市内周遊及び滞在の促進を図る。年間を通じた観光需要の創出と平準化に取り組む。

①びわ湖の桜とあお若葉（もみじ）誘客キャンペーン

期 間 令和8年3月～6月、令和9年3月～6月

内 容 湖信会社寺を中心に桜の季節やあお若葉が彩るゴールデンウィークから初夏にかけての誘客促進を行う。また、滋賀県が取り組んでいる戦国をテーマにした観光キャンペーンや大河ドラマと連動した情報発信を行う。

②びわ湖大津夏の夜もうで事業

期 間 令和8年7月～9月

内 容 社寺の夜間拝観やライトアップ、湖畔の花火大会、ナイトツアー、夜市など、大津市の多彩な夏の夜の魅力を紹介し、大津市ならではの“夏の過ごし方を提案する観光キャンペーンを実施し、ナイトタイムエコノミーの創出を図る。

③秋の紅葉シーズンにあわせた周遊促進事業

期 間 令和8年9月～12月

内 容 秋の紅葉シーズンにおいて、日本天台三総本山をはじめとした社寺の特別公開や季節限定の体験コンテンツを実施し、女性や若年層を主なターゲットとした周遊促進を通じて観光需要の拡大を図る。

④びわ湖大津のひな人形と梅めぐり事業

期 間 令和9年1月～3月

場 所 西教寺・膳所焼美術館・石山寺・叶 匠壽庵寿長生の郷 他

内 容 伝統文化と自然の魅力を融合させた冬期閑散期の目玉コンテンツとして、大津市内のひな人形と梅のスポットを巡る周遊促進事業を展開する。

(2) 自然や文化などを活かした体験型観光プロモーション事業（補助）

四季折々の豊かな自然体験や文化体験など、びわ湖大津ならではのアクティビティ情報を発信し、アドベンチャーツーリズムやウェルネスツーリズムの促進を図る。

・アクティビティ・自然・文化体験を活用した誘客促進事業

期 間 令和8年4月～令和9年3月

内 容 自然体験や文化体験などの体験コンテンツを中心とした観光素材の情報発信を実施し、参加機会の創出と体験型観光の促進を図る。

(3) スポーツツーリズム促進事業（自主）

大津市をホームタウンとするクラブチームの試合など、スポーツ観戦を目的とした来訪者に向けて、周辺観光や市内周遊に繋げるスポーツツーリズムを推進する。

①スポーツイベント会場を起点とした市内周遊促進事業

大津市をホームタウンとするクラブチームのスポーツ観戦者等を対象に、割引やノベルティ配布など特典付与による市内周遊の取り組みを推進する。

②スポーツイベントの誘致促進

大津市 MICE 推進室等との連携により、大津市を会場とするスポーツイベントの誘致を行う。

(4) コンテンツツーリズム誘客促進事業（委託・自主）

多様化するターゲットの嗜好を明確にしたコンテンツツーリズムの展開として、機会を捉えた的確な情報発信を行いびわ湖大津の認知度向上及び誘客促進を図る。

①成瀬は天下を取りにいく観光キャンペーンの実施

（ア）周遊促進事業

大津市と京都市のゆかりの地をめぐる広域のスタンプラリーを実施。

（イ）誘客プロモーション事業

（ウ）受入体制整備事業

- ・ 成瀬あかりシリーズ舞台探訪マップリニューアル
- ・ 膳所駅ウェルカム看板デザインリニューアル
- ・ 成瀬あかりシリーズ聖地巡礼ツアーの実施

②びわ湖大津が舞台となった作品を活用した情報発信

びわ湖大津が舞台となった小説、アニメ、ドラマ、マンガ等のコンテンツや四季折々の話題など、メディアや旅行会社等の多様なニーズに応えた情報発信を行う。

③文学のまち大津ブランディング連携事業（委託・自主）

大津市が進める「文学のまち大津ブランディング事業」に参画し、源氏物語や百人一首など大津ゆかりの文学資源の発信や関連事業との連携を通じて、「文学のまち大津」の認知向上と観光資源としての魅力発信を図る。

(5) 滋賀県観光キャンペーンと連動した誘客促進事業（委託）

①戦国ディスカバリー滋賀・びわ湖との連動

- ・ 戦国ゆかりの地「大津」プロモーション事業

大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送を契機に、戦国時代とゆかりの深い大津の魅力を広く発信する。

②滋賀デスティネーションキャンペーンとの連動

- ・ JR デスティネーションキャンペーンに伴うプロモーション事業

令和 9 年度の DC 本番に向けた準備として、大津市ならではのオリジナルコンテンツの開発や事業者が造成した商品の取りまとめを行い、旅行会社への販促活動を行う。

(6) 観光マーケティング・プロモーション事業（補助）

各種データに基づく戦略設計と効果的な情報発信を行い、ターゲット層に応じた観光プロモーションを展開する。デジタル媒体と紙媒体、マスメディアを組み合わせ、認知拡大と来訪促進を図る。

① 観光データ分析及びマーケティング戦略策定事業

観光動態調査や WEB・SNS のアクセス解析、広告配信結果等を分析し、市場動向の把握とターゲット設定を行う。分析結果に基づき、年間を通じたプロモーション方針を策定する。

② デジタルプロモーション推進事業

SNS や WEB、広告運用等を活用した情報発信を行い、ターゲット層に応じたデジタルプロモーションを推進する。効果測定と改善を重ねながら、来訪促進につなげる。

③ 観光パンフレット作成事業

季刊情報誌等の観光パンフレットを作成し、紙媒体の特性を活かした情報提供を行う。設置や配布の工夫により、周遊促進と来訪意欲の喚起につなげる。

④ マスメディア広報 PR 事業

テレビ・新聞・出版社等のマスメディアに対し、地域特性を活かした特集企画や観光情報を提案し、掲載・放映機会の創出を図る。

(7) びわ湖大津観光大使事業（補助）

「びわ湖大津」の観光宣伝の一翼を担うびわ湖大津観光大使を選任し、市内での観光イベントや市内外での観光キャンペーン、SNS 等を通じて、大津の魅力を広く発信する。

(8) 第 72 回びわ湖開き事業（自主）

湖国滋賀に春の訪れを告げる恒例行事として、びわ湖大津の観光シーズンの開幕を広く発信するとともに、びわ湖を訪れる観光客の安全を祈念し、水の恵みに感謝する。また、大津港を中心に港と町の賑わいを創出する。

期 日 令和 9 年 3 月 6 日（土）予定

場 所 大津港、外輪船ミシガン等

関連事業 湖上パレード参加クルーズ・浜大津エリアにぎわい創出事業

2. MICE・インバウンド誘致事業（5,748 千円）

大津市への MICE・インバウンド受入拡大のため、情報発信やプロモーション及び受け入れ体制の整備を進める。

(1) MICE・インバウンド誘客促進事業（自主）

大津市及びびわこビジターズビューローと連携して、MICE 並びにインバウンドの誘客促進に取り組む。

① BVB インバウンド部会による商談会参加及び情報提供

② 大津市 MICE 推進室との情報共有と MICE・インバウンド 受入支援

③ スポーツイベント誘致促進（観光宣伝誘客部会連携事業）

(2) 着地型観光コンテンツ整備事業(補助)

団体・個人向けの着地型観光プランを整備し、観光地としての認知度向上を図る。

・市内観光地・体験コンテンツ受入体制の整備

地域の観光資源を活用した既存体験コンテンツの認知向上を図るとともに、旅行者ニーズに対応した観光プランの造成及び受入整備を進める。

(3) MICE・インバウンド向けプロモーション・セールス事業（補助・委託）

国内外の商談会や現地セールスを通じ、新たな需要の獲得と市内観光消費の拡大を図る。

①国内商談会活用・市場開拓事業

VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2026 への参加

②海外プロモーション・セールス事業

現地セールスの実施

③京都市内観光客向け広報強化（パンフレット配布、ウェブ発信）

京都滞在の観光客向け SNS 広告

(4) 通訳ガイド活用促進事業（自主・委託）

大津市が参画する京都市認定通訳ガイドの活用を促進し、会員事業者との連携を強化する。

①通訳ガイドのマッチング支援

通訳ガイドと観光事業者・インバウンド観光客のマッチング促進を図る。

②通訳ガイド研修の実施

ガイドが大津を深く案内できるよう、歴史・文化・観光資源について学ぶ研修を実施する。

3. 観光客受入整備事業（48,889 千円）

(1) ライトアップ事業（補助）

ナイトタイムエコノミーの促進と宿泊滞在型観光の推進を図るため、大津の豊かな自然や歴史ある建造物をライトアップする。

①びわ湖大津春のライトアップ 2026 桜の琵琶湖疏水

期 間 令和 8 年 3 月 25 日（火）～4 月 13 日（日）

場 所 琵琶湖疏水

②びわ湖大津夏のライトアップ

ア 夏のライトアップ

期 間 令和 8 年 7 月中旬～9 月上旬 予定

場 所 大津市内

イ 西教寺光りの参道

期 間 令和 8 年 7 月下旬～9 月上旬 予定

場 所 西教寺参道

・その他、市内事業者・地域と連携して新たなライトアップイベントの展開

③びわ湖大津春のライトアップ 2027 桜の琵琶湖疏水

期 間 令和 9 年 3 月下旬～4 月上旬 予定

場 所 琵琶湖疏水

(2) 大津のうなぎブランディング事業（補助）

大津のうなぎの認知度向上と大津ならではの食を活かした誘客促進に繋げるため、大津のうなぎのブランディングを行う。

・ OTSU UNAGI & SAKE FES 2026 の実施

(3) 「かるたの聖地・大津」誘客促進事業（自主）

かるたの聖地・大津の取り組みとして、百人一首や競技かるたを活用したイベントの開催や大津で開催される競技かるた大会の運営補助や宿泊斡旋等の受入支援などを行い、誘客促進を図る。

(4) 観光案内所運営事業（委託）

地元と連携を図りながら、大津駅観光案内所、石山駅観光案内所、堅田駅前観光案内所の運営を行う。

(5) サテライト観光案内所運営事業（委託）

来訪客の満足度向上のため、市内で行われるスポーツイベントや祭り等で臨時の観光案内所を開設する。また、大津市外においては季節の観光情報の発信を行い、大津市への誘客促進を図る。

(6) 観光ボランティアガイド活用事業（自主）

MICE・教育旅行の受入強化及び来訪者の満足度向上のため、市内ボランティアガイド団体と連携して受入体制の充実を図る。

① 研修会の開催による資質の向上

② ガイド人員拡充等、体制の充実

(7) びわ湖疏水船事業の活用による観光振興事業（自主）

「琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会」において京都市観光協会と共に中核を担う役割として疏水船の利用促進と安全運航の推進を図ると共に、将来的な基盤整備の検討を行う。

また、大津港への延伸に伴う乗船前後の市内周遊促進を図り、京都・大津間の誘客ルートとして確立させ、インバウンド商品としての開発や大津市民への周知にも努める。

(8) びわこ花噴水運転事業（補助）

(9) 大津港活性化・再整備に伴うびわ湖湖岸スペースの観光活用検討（自主）

大津港の再整備を見据え、びわ湖湖岸の公共空間を観光資源として活用する方策について検討する。

湖岸の特性や来訪者動向を踏まえ、滞在・回遊を促進する空間づくりの方向性を整理するとともに、クルーズや周辺施設との連携、イベント活用、飲食・物販の導入、民間事業者との連携の可能性を探り、持続的な賑わい創出につなげる。

(10) 観光地域マネジメント基盤整備事業

観光協会が地域全体を支える観光マネジメント組織として機能するため、DMO 化に向けた体制整備を行う。

特に、大津市が導入する新たな観光財源に関して、観光事業者や地域関係者と課題・期待を共有しながら調査研究を行い、持続可能な観光政策につながる意見整理を行う。

4. 教育旅行受入対策事業（3,777 千円）

(1) 教育旅行誘致促進事業（補助・自主）

①部会による現地セミナー（商談会）の開催

首都圏など誘致重点エリアにおいて大津市の教育旅行の魅力を広く発信するため、「びわ湖大津教育旅行セミナー」を開催。地域全体で一体感のある教育旅行の魅力をアピールし、首都圏・関東地区からの新たな誘致機会の創出を図る。

②BVB のキャラバンへの参加及び旅行会社の視察対応

(2) 情報発信事業（補助）

①ターゲットエリア及び旅行会社への情報発信

「びわ湖大津 SDGs 学習プログラム」や市内観光事業者の施設を PR する企画書等を作成し、県外の教育機関や旅行会社へ配布。大津市の教育旅行プログラムの認知拡大を図る。

②旅行業界専門誌や教育専門誌への広告掲載

教育現場及び旅行会社等へ配布されている教育旅行専門誌へ「びわ湖大津 SDGs 教育旅行プログラム」の記事広告を掲載して周知を図る。

③教育旅行プロモーション動画の作成

県外旅行会社における商品造成や学校への提案活動を支援するため、「びわ湖大津 SDGs 学習プログラム」の特徴を短時間で伝えられるプロモーション動画を制作する。

企画書・パンフレットと併用し、営業ツールとしての活用を図る。

(3) 教育旅行企画書・プログラム充実事業（補助）

①教育旅行企画書・タリフの作成・整備

旅行会社や会員事業者が販売活動に活用できる教育旅行企画書やタリフを作成し、情報を整理・提供する。内容を随時更新し、より使いやすい資料として整備を進める。

②新規体験プログラムの開発・拡充

地域の自然や歴史文化を活かし、SDGs 学習や伝統工芸体験を開発。地元の多様な産業や事業者と連携し、魅力ある内容を提供する。

5. 広域観光振興事業（87,204 千円）

県・市内外の各種団体と連携し、観光振興推進を図る。

(1) 滋賀県・(公社)びわこビジターズビューローとの連携事業（補助・自主）

滋賀県及びびわこビジターズビューローが行う事業と連携して効果的な観光情報発信と誘客イベント等を実施する。

①県主催観光誘客事業における地域情報の提供及び誘客イベントの実施

(ア) 戦国ディスカバリー滋賀・びわ湖キャンペーンへの参画

(イ) 滋賀デスティネーションキャンペーンへの参画

②県観光情報誌等への情報提供

③国内旅行商品企画担当者商談会での情報提供及び商談

④会員に向けて県が行う各種観光支援施策の周知ならびに活用促進を図る

(2) 湖信会十社寺との連携事業（自主）

湖信会十社寺との連携により、文化財・文化的景観による観光誘客や、市内来訪・周遊の促進を図る。

(3) 大津市諸団体との連携事業（自主）

大津商工会議所、大津市公園緑地協会、比良比叡トレイル協議会など市内諸団体と連携を図り、地域における観光振興推進に取り組む。

(4) 大津志賀観光振興事業（補助）

より広範囲に大津観光の展開を図るため、びわ湖大津志賀観光振興協議会に参画し、誘客事業、誘客促進事業を図る。

(5) 地域観光振興事業（補助）

大津市内の地域観光協会や諸団体が年間を通じて実施している、観光PRやイベント事業の活性化を通じて地域振興を図る。

(6) 市内観光事業への後援・協賛等（自主）

関係諸団体の主催する観光事業等に対し、後援・表彰等を行い観光振興の機運醸成に努める。

6. 物産振興事業（1,069 千円）

（1）物産プロモーション事業（補助）

WEB、SNS等での情報発信やイベント等事業において、観光宣伝・誘客部会や総務部会など他部会との連携し情報発信に努める。

- ①季刊情報誌や SNS 等を活用した情報発信
- ②「大津のうなぎ」ブランディング事業との連携
- ③東京日本橋「ここ滋賀」及び大津駅観光案内所での物産 PR

（2）市内外開催イベント及び物産展等への出店事業（自主）

- ①近鉄百貨店草津店「近江路」
- ②滋賀・びわ湖マルシェ・オール滋賀 PR（びわこビジターズビューロー主催）
- ③びわ湖マラソン WELCOME フェスタ
- ④大津祭に伴う物産展
- ⑤その他県内開催イベント等における出展など

（3）土産品等商品開発促進事業（自主）

滋賀県内や大津市内で行われる大型イベント等に合わせて新たな土産品開発を促進するための情報提供等を行う。

（4）スポーツツーリズム促進事業との連携（自主） ※観光宣伝誘客部会事業再掲

- ・スポーツイベント会場を起点とした市内周遊促進事業
- 大津市をホームタウンとするクラブチームのスポーツ観戦者等を対象に、割引やノベルティ配布など特典付与による市内周遊の取り組みを推進する。

【収益目的事業】

1. 物販事業

観光名刺台紙や観光キャラクター関連商品、地域の特産品・工芸品の開発・販売を行い、来訪者への訴求力向上と地域消費の拡大を図る。

2. チケット販売事業

イベント入場券や企画乗車券類の販売を通じて、観光客の利便性向上と誘客促進を図る。

3. 市内開催イベント等での物販支援事業

市内観光イベントにおける物販を支援し、地域事業者の販売機会の創出と売上拡大につなげるとともに、観光誘客への波及効果を高める。

4. 旅行業事業

(1) びわ湖大津の魅力を活かした着地型観光商品の造成・販売

歴史・文化・自然や季節の特色を活かした着地型観光商品及び体験プログラムを造成・販売し、誘客促進と滞在時間の延伸を図るとともに、市民が地域の魅力を再認識する機会の創出につなげる。

(2) SDGs 学習プログラムを活用した教育旅行受入

びわ湖大津 SDGs 学習プログラムを活用した探究型学習を中心とする体験・学習プランを販売し、持続可能な観光の推進と新たな教育旅行需要の獲得を図る。

(3) 全国高校かるた選手権大会及び大津祭等の着地型イベント受入

全国高校かるた選手権大会や大津祭など、地域を代表する大会・祭事の受入を通じ、地域内周遊を促進し、滞在時間の延長と観光消費の拡大を図る。

(4) 着地型観光の受入支援機能の強化

国内外の旅行会社と連携し、着地型観光商品の手配及び受入業務を行い、継続的な誘客につなげる。

【会議】

(1) 通常総会

(2) 理事会

(3) 専門部会（総括部会、総務部会、観光宣伝・誘客部会、教育旅行部会、物産振興部会）

(4) 地域観光協会連絡会議（地域観光協会懇話会）